

『勉学の秋に楽しむ語学のすすめ～スペイン語～』(11月全校朝会講話)
校長 高汐 康浩

「世界の国々の中で日本語を公用語として

法に規定している国は何か国ありますか？」



これは2年前に当時の1年生向けの校長特別授業での質問だ。現3年生は思い出してくれたと思う。答えは『1か国』である。さて、その国はどこか？日本ではない。日本は法でわざわざ規定しなくてもよい。というのも、例えば、公の会議などでは規定せずとも皆日本語を使うからだ。国によっては複数の言語が使われる場合に、公の会議で使う言語を規定しなければならないのだ。それでは、どこの国が日本語を公用語として法に規定しているのか！？調べてみよう。ヒントは太平洋の小さな島である。今日のテーマは『スペイン語』なのに、なぜ、この話？と思うかもしれないが、このことは「楽しむ語学」に関係あるからだ。



さて、今日、生徒の皆さんにおすすめしたいのは、「楽しむ語学」である。そして、スペイン語の学びのすすめである。2002年の4月にスペイン語が公用語であるアルゼンチンで生活を始めた。アルゼンチンでの仕事が決まった時期がその3カ月前だったので、引っ越しの準備が忙しくスペイン語を事前に勉強をする時間などはなかった。スペイン語を全く使えない状況でアルゼンチンに行ったのだ。でも、事前に勉強しなくてよかったと思った。早速、スペイン語のシャワーを浴びるのだが、いくつか気付いたことがあった。一つは、意味は分からなくてもその発音を確かに聞き取れるのだ。英語や中国語などではなかなかそうはいかない。「¿De dónde es?」は『あなたはどこの出身ですか？』という意味だ。特によく聞かれたフレーズの一つだ。読み方は『で どん で えす』であり、日本語のように言えば間違いなく通じる。そして、その答えは「Soy de Japón.」、読み方は『そい で はほん』これもこのままひらがなをよめば通じる。なんか馴染(なじ)みのある発音である。英語と比較してみよう。

¿De dónde es? は Where are you from? であり、De が from、dónde が Where、es が are に対応する。英語の you に当たる部分は省略されている。

Soy de Japón. は I am from Japan. であり、Soy は am、de は from、Japón はスペルを見ればわかると思うが Japan である。こちらも主語の I に当たる部分は省略されている。そして、発音は日本語とよく似ていて子音と母音が組み合わさっているのだ。日本の小学校では「あいうえお…」を習うが、スペイン語圏の小学校では「a e i o u」の順番で発音を習う。だから、日本人は意味は分からなくてもその発音を聞き取れるのだ。あとは、日本語と同様に主語などが相手に伝われば省略されるのだ。さらに、単語の語順が変わっても OK である。英語の I want it. をそのままスペイン語にすると Yo quiero esto. (よ きえろ えすと) になる。でも Esto yo quiero. (えすと よ きえろ) でも Esto quiero. (えすと きえろ) でもよい。大体の場面で Esto quiero. を使う。日本語で言えば「それ、ほしい」だ。励ますときに、「あなただったらできるよ！」ということはよくある。スペイン語では Puede hacer esto! (ぶえで あせーる えすと) といえばよい。なんとなくわかると思うが、Puede は Can、hacer は do である。You は省略されている。興味深いのは Puede という単語はフィリピンでもよく聞いた。なぜ、フィリピンの人が使うのかを考えてみるとおもしろい。



次に気付いたことは、スペイン語圏の人の話す英語は聞き取りやすいということだ。英語がネイティブ言語ではない日本人の話す英語が聞き取りやすいのに似ている。その英語の発音が子音と母音を組み合わせたような発音になるからだと思う。スペイン語圏の航空会社の英語のアナウンスを聞いたときには、英語が聞き取れてうれしかった思い出がある(笑)。

ところで、スペイン語は世界の人々で使われている言語のうち、3番目や4番目に多いといわれている。しかし、経験上、スペイン語はアメリカの南部や西部では通じることが分かったし、イタリア語圏、ポルトガル語圏でもほぼ通じる。だから、1位の英語や2位の中国語よりもはるかに便利な言語だと思う。

アルゼンチンでの生活をしながらスペイン語の学習を楽しんでいることに気付いた。当時、語学の本を買ってはみたが、会話の場面ではその内容をあまり活用していない。使うのは、スーパーマーケットでのやりとり、友達との会話など日常使う言葉と慣用句だ。文法などは基本ではあるが、まずは実践である。私の場合は半年位で生活に必要なスペイン語はわかるようになった。今でもときどきアルゼンチン人と雑談するが、あまり不自由なく会話をする。そして、冒頭の話にもどるが、今は、日本語を公用語に法で規定している国に興味をもっている。その国でどんな日本語が使われているのか、いろいろと調べている。とても楽しい。最後に、「サルサソース(salsa sauce)」という言葉を最近聞くが、これはスペイン語と英語の組み合わせである。インターネットなどで意味を調べてみよう。きっと『????』と思うはずである。



第13号

令和7年11月4日

府中市立

府中第八中学校



（在籍生徒数）	一学年 250名、二学年 218名、三学年 245名
学校住所・電話番号	〒182-0035 府中市四谷一丁目一八二七
電話	○四二(三六四)一八八一
来校者の生徒の方々の意見を伺いました。	★「八中の生徒の方々の意見を伺いました。」

